

# 大山の森だより

2024年夏号

## 自然(しぜん)と自然(じねん)

明治以降、日本では英語のネイチャー(nature)の翻訳語として、仏教用語である「自然」が使われてきました。仏教では、「自然」を「じねん」と言い、「自(おのず)ら然(しか)る」という意味に解釈します。人間の作為のない「そのまま」の在り方が「自然(じねん)」です。一方、英語のネイチャー(nature)の翻訳語である自然(しぜん)は、人間と対立するものとされ、人間が克服すべき、また繁栄するための対象と見なされました。そのため自然(しぜん)は人間のために開発が行われ、破壊が行き過ぎると保護の対象とされました。



江府町鏡ヶ成の自然保護憲章碑

### 自然保護憲章の精神

「自然をとらとび、自然を愛し、自然に親しもう。

自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしよう。

美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。」

2024年は日本の自然保護憲章が制定されて50周年になります。制定のきっかけの場所である大山は、古くから仏教の聖地とされています。仏教では、人間は自然(しぜん)を超えた存在でなく、自然(じねん)の一部です。私たち人間は、自然に生かされる存在であり、また自然を生かす存在であると認識し、それゆえに自然を護っていかねばならないと思います。自然保護は人間の未来を守る活動でもあります。

## 4～5月 自然ふれあい事業 活動報告



### 📍鏡ヶ成 カタクリとサンカヨウの花を愛でる

開催日：4月28日(日)

初夏のような日差しのもと、尾根に群れ咲くカタクリや山麓のサンカヨウの群落を観察しました。鏡ヶ成の高地湿原や草原、森の植物の春の芽吹きもじっくり観察。奥大山の遅い春を満喫しました。

### 📍西明院谷 オルガニート演奏と春の花観察会

開催日：5月18日(土)

初夏のさわやかな日差しのもと、古代寺院跡の森を、花々を探しながら散策しました。大きな寺院跡では手回しオルゴール＝オルガニートを参加者が演奏しました。オルガニートの優しい音色に癒される体験となりました。



■自然公園財団では、季節ごとに観察会などを開催しています。

予約なしでも参加できるイベントもありますので、是非ご参加ください。

裏面にイベント情報を掲載しています。



# 大山の菌従属栄養植物



## キノコから栄養を奪って育つ植物

菌従属栄養植物とは聞きなれない言葉ですが、近年、腐生植物と呼ばれていた植物群を表すようになった用語です。植物体に光合成で自活する能力がなく、菌類(キノコやカビの仲間)に寄生して栄養素を得て生活する種子植物を指します。

多くの植物は菌類と根を通じて共生関係を持っており、植物は光合成からの成果物(有機物)を、菌類は生物(死体)分解の成果物(ミネラル)を交換して生活していますが、菌従属栄養植物は菌類から栄養をもらうだけのようです。

光合成をする必要がないので、普段は根だけで生活しており、開花結実の時だけ地上に現れるものがほとんどです。大山の森では下記の菌従属栄養植物が見られます。



ツチアケビ実



### ギンリョウソウ(ツツジ科ギンリョウソウ属):

6~7月に地上に現れ、白い茎の先端に透明感のある白い花を1輪、下向きに咲かせます。草丈は最大15センチ。茎には葉が退化した鱗片葉が互生します。菌根菌のベニタケ属、チチタケ属の様々な種に寄生します。多年草。



### ギンリョウソウモドキ(ツツジ科シャクジョウソウ属):

ギンリョウソウにそっくりな花を8~9月に咲かせます。別名はアキノギンリョウソウ。ギンリョウソウの実は液果ですが、こちらはさく科果。菌根菌のキシメジ属に寄生します。多年草です。



### シャクジョウソウ(ツツジ科シャクジョウソウ属):

植物体全体が淡黄褐色で、花期は7~8月。茎の先端に総状花序をつけ、4~8個の花を下向きにつけます。和名は、全形を僧が持つ錫杖に見立てたもの。茎の高さは10~20センチとのことですが、大山で見かける個体は5センチ前後のものが多いです。寄生する菌はベニタケ属らしいです。多年草。



### オニノヤガラ(ラン科オニノヤガラ属):

6~7月に20~50個の黄褐色の花を茎の先端に総状につけ、下から開花していきます。和名は40~100センチほどにまっすぐに伸びた花茎を、鬼が使う矢の幹に見立てたもの。木材腐朽菌のナラタケに寄生します。多年草。

※茎が短く、花、茎とも淡黄色になる変種のシロテンマもまれに見られます。



### ツチアケビ(ラン科ツチアケビ属):

初夏に茶褐色の花茎を地上に伸ばします。花茎は高さが50~100センチメートルに達し、あちこちに枝を出して先端にクリーム色の花を咲かせます。花は3センチ近くになり、中央は黄色。花後に赤いソーセージ状の実を複数つけます。木材腐朽菌のナラタケに寄生します。多年草。林内の笹藪などでも見かけることがあります。

※写真はツチアケビの花

## 豊かな森の銀の龍「ギンリョウソウ」



梅雨入り間近の6月、大山の森の湿った落ち葉を持ち上げて白い首をのぞかせるものがあります。うつむき気味に咲く「銀龍草(ギンリョウソウ)」です。※なぜかギンリュウではなくギンリョウ。

薄暗い森で咲く白い姿から幽霊タケとも呼ばれます。キノコの仲間ではなく、れっきとした植物です。中国では「水晶蘭」と呼ばれるそうです。人によって綺麗な花だと思うか、気味の悪い花だと思うか、意見が分かれるかもしれませんね。

全体が白いのは葉緑素を欠いているためで、栄養は周辺のキノコから得ています。普段は土の中で過ごし、花の時期だけ地上に現れます。そして森林に棲むマルハナバチが下向きに咲いた花に潜り込んで受粉を助け、その後、森の小さなゴキブリたちができた液実を食べて種をまき散らすのだとか。なかなか興味深い生態です。

ギンリョウソウは落ち葉がたっぷり積もったふかふかの土で育つため、豊かな森を証明する植物でもあります。花言葉は「はにかみ、そっと見守る」 秋には姿かたちがそっくりなギンリョウソウモドキが観察できます。



## 森の赤いソーセージ「ツチアケビ」

ツチアケビ(土通草)という名前の由来は、果実の形がアケビ(通草)によく似ていて、直接土から生えているから。また果実が赤くトウガラシに似ているので、ヤマトウガラシ、びっしりと付いた実を付けた姿からヤマシャクジョウとも呼ばれるそうです。

光合成することなくナラタケと共生する大型の腐生ランの仲間、沖縄を除く日本全国の腐食の多い森や藪に生えます。初夏、地面からすっと伸びた茶褐色の茎にクリーム色(一部黄色)の地味な花をたくさん付けます。葉はありません。

果実は秋に熟し思わぬところで出くわしてビックリしてしまいます。10センチはある細長い赤い実をたわわに付けたその姿は、森のソーセージと言った方がぴったりです。ランの仲間では珍しく動物が実を食べて種をまき散らすそうです。人間にとっても滋養強壮薬として江戸時代から利用されてきた薬草です。多年草なので毎年同じ場所で観察できます。

花言葉は不明。あなたならどんな花言葉をつけますか？



### 菌従属栄養植物 とは



光合成能力がなく、菌類(キノコやカビの仲間)に寄生して栄養素を得る種子植物を指します。

多くの植物は菌類と根を通じて共生関係を持っており、植物は光合成からの成果物(有機物)を、菌類は生物(死体)分解の成果物(ミネラル)を交換して生活していますが、菌従属栄養植物は菌類から栄養をもらうだけのようです。

光合成をする必要がないので、普段は根だけで生活しており、開花結実の時だけ地上に現れるものがほとんどです。



# ーイベント情報（7月～9月）ー



## ■自然公園財団のイベント

<p><b>○鏡ヶ成 高地湿原の花観察会</b> 開催日：7月6日(土) 9:00～12:00頃 会場：江府町鏡ヶ成湿原周辺 集合場所：休暇村奥大山前 参加費：1500円</p>	<p>奥大山の鏡ヶ成湿原は、大山に残された数少ない高地湿原です。貴重な湿原植物の花を探し、湿原環境の保全について考えます。休憩時にはタムシバ茶といろいろな蜂蜜を試食。花と昆虫のかかわりも体感します。 定員15名 <span style="float:right">自然観察</span></p>
<p><b>○奥大山木谷沢溪流の森と草原観察会</b> 開催日：9月8日(日) 9:00～12:00頃 会場：江府町大平原・木谷沢溪流周辺 集合場所：木谷沢溪流駐車場 参加費：1500円</p>	<p>木谷沢溪流は上流のブナの森が作り出した美しい溪流です。清らかな流れと苔むした岩と巨木が織りなす自然美を堪能し、周辺の森や大山南壁を臨む草原で植物を観察します。 定員：15名 <span style="float:right">自然観察</span></p>
<p><b>○秋の木の実草の実観察会</b> 開催日：9月28日(土) 9:00～12:00頃 会場：大山寺 寂静山・豪円山周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円</p>	<p>秋は実りの季節。様々な植物が実(種)を結びます。実(種)は植物が命をつなぐ手段。植物ごとにいろいろな工夫が見られます。大山の森や草原でいろいろな実を見つけて観察してみましょ。  定員：15名 <span style="float:right">自然観察</span></p>

## ■大山のイベント■

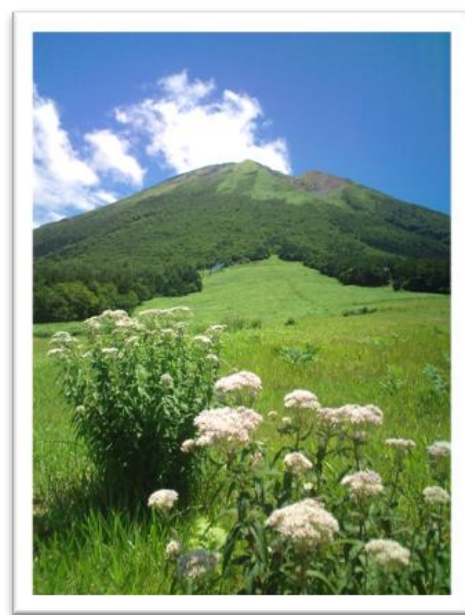
# フェスティバル・ディア・マスミズ

開催期間：2024年7月27日 17:00スタート

開催場所：鳥取県伯耆町 大山榎水高原

伯耆町の夏祭り「フェスティバル・ディア・マスミズ」が、大山屈指のリゾートゾーン「榎水高原」で開催されます。夜空を彩る花火は、頭上で花開くかのような迫力！大山を背景にした夜景とのコントラストは圧巻です。当日は、天空リフトの特別運行があり、展望台から弓ヶ浜半島を背景に花火を楽しむこともできます。イベント会場では、多数の屋台が出店し、地元で受け継がれる「盆踊り」が行われます。早めに行って榎水高原の草原を歩くのも良いかも。

夏の榎水高原⇒



一般財団法人 自然公園財団 鳥取支部 大山事業地

〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山40-33

大山ナショナルパークセンター(大山 NPC) 1階

TEL:0859-52-2165 FAX:0859-52-2370

URL <http://www.npfj.or.jp/daisen/>



ホームページ QR コード

※ホームページのアドレスが上記に変わりました

